

縄文土器や土偶に見られる造形

宇宙的で神秘的

滋澤さん（家） 写真家 諏訪で講演

諏訪市中洲神宮寺の喫茶店「語りべ喫茶 神州の龍神」は5日、「縄文の夜神楽」と題する講演を同店で行った。諏訪地方など各地の縄文土器や土偶を撮影してきた写真家の滋澤雅人さん（東京都八王子市）が「縄文土器や土偶には宇宙的で神秘的な造形が数多く見られる」とし、「縄文時代の人々は宇宙というものをわれわれより深く感じ取っていたのだろう」と語った。

（手塚洋一）

銀河系の渦に似た 渦巻き文様も多く

滋澤さんが撮影した縄文土器や土偶の写真を交えながら、多様な形や文様について解説。不気味な顔が表現されていて「よみの国の世界を表しながらも、どこかユーモラスで温かい感じがあり、縄文の人たちには余裕がある」と説明したほか、精巧な文様で宇宙船のような形をしていたり、大地を踏みしめて生命の息吹を吸い上げているかのような姿をしていたりすることを話した。

その上で、「あらゆる物質は、銀河系の中心から供給されている電気の力によって形

を成しているのではないかとする説を紹介。縄文土器には銀河系の渦に似た渦巻いている文様が多くあり、「われわれは広い宇宙に包まれて生きていくということが、縄文の人たちには分かっていたのではないか」と強調した。



写真家の滋澤雅人さんが「縄文の夜神楽」と題し、撮影した縄文土器や土偶の写真を紹介しながら語った講演